

施策名		
1 学校教育の充実		
(1) 実社会で生きる実践的な力の育成		
施策評価		
B	各事業の評価を合計した結果の平均から判断	A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)	評価	点検内容
1 指導室	3	事業概要 平成30年度から開始した小中一貫教育の枠組みを基盤とし、義務教育9年間を見通した教育課程の改善・充実を図る。特に、小中9年間の教育目標の共有化を深め、系統的な指導体制の確立によって、子どもたちの確実な資質・能力の育成を目指す。
小中一貫教育の推進		実施状況 各種調査結果に基づき、9年間の学びの連続性を意識した教育課程の編成・実施に努め、指導体制の充実を図った。小中一貫した指導法の研究や合同研修を通じ、学校間の段差を解消し、子どもたちの学習状況に合わせたきめ細やかな指導を組織的に展開した。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着		総合評価 義務教育9年間で育成すべき資質・能力の明確化や、定期的に見直している環境教育等の再編を通じて、より質の高い教育課程を実現する必要がある。また、中1ギャップの解消のみならず、高学年からの専科指導の充実など、小中の教職員がより深く協働する体制をさらに深化させる必要がある。
2 指導室	3	事業概要 こども園による「アプローチカリキュラム」と小学校における「スタートカリキュラム」のつながりを強化し、円滑な接続を推進する。0歳児から15歳までの一貫した発達段階を捉え、幼児教育の成果を学校教育へと確実につなげるための連携体制を構築する。
幼児教育と学校教育の連携充実		実施状況 こども園と小学校の教職員による情報交換を定期的に行い、教育・保育のねらいについて共通理解を深めた。幼児期の遊びを通じた学びが、小学校での各教科の学習にどのように繋がるかを可視化し、接続期のカリキュラムの改善に取り組んだ。
【教育行政のスキーム】 幼児教育と義務教育の連携協力		総合評価 幼児期と学童期の段差をなくし、子どもたちが安心して小学校生活をスタートできるよう、発達の段階に応じた連携をさらに深化させる必要がある。特に、特別な支援を必要とする子どもの情報共有など、個に応じた一貫したサポート体制の質をさらに向上させる必要がある。
3 指導室	3	事業概要 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、子どもたちが主体的に課題を解決する力の育成に向けた授業改善を推進する。現行学習指導要領の趣旨を踏まえ、単元で育成すべき資質・能力を明確にした指導計画への見直しと実践を促す。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進		実施状況 ICT機器を子どもたちが主体的に学びを獲得するためのツールとして位置付け、個の学びの深化と対話による学びの創出を両立させた。指導室による学校訪問や公開研究会を通じ、問いの立て方や振り返りの工夫など、具体的な授業改善の視点を共有した。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上		総合評価 調査結果で見られた主体的な学びへの意欲向上という課題に対し、実効性のある取組を全校で組織的に実践し続ける必要がある。また、ICTを単なる提示用ではなく、子どもたちの思考を深め、他者と共有するためのツールとして活用するスキルの更なる向上が必要である。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	管理課 学校教育係	3	事業概要	ICT機器を活用した授業実践を生かしながら、単元で達成すべき資質・能力の育成に適した個の学びの深化並びに協働的な学びの創出や、子どもたちが主体的に学びを獲得するツールとして利活用を図る。
ICT機器の利活用			実施状況	令和7年2月に更新した児童生徒用タブレット端末を利用し、一人一台端末での授業等を実施した。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	一人一台端末環境による教育活動の円滑な運用を図ることができた。
5	指導室	3	事業概要	農・林・水産・再生可能エネルギー・アイヌ文化の5つのフィールドを融合した、白糠町ならではの環境教育を再編・推進する。ふるさとの資源を多角的に見つめ直し、持続可能な社会の創り手として積極的に社会へ参画しようとする態度の育成を目指す。
ふるさと教育と環境教育の充実			実施状況	総合的な学習の時間において「探究過程のサイクル(課題設定・収集・分析・表現)」を重視した、地域密着型の学習活動を全校で実施した。地域人材や地元企業の協力を得て、5つのフィールドを実体験として学ぶ機会を設け、子どもたちの郷土愛と環境意識を醸成した。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	白糠町の豊かな自然や文化を教材として教育課程に確実に取り込み、学習活動の質を一層改善・充実させていく必要がある。特に、得られた知識を自分事として捉え、持続可能な社会のために何ができるかを考える探究学習へと深化させる必要がある。
6	指導室	4	事業概要	子どもたちが外国語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ることができるよう、9年間を見通した外国語教育を推進する。中学校教師の小学校乗り入れやALTの積極活用を通じ、音声によるコミュニケーションを中心とした実践的な力の育成を図る。
実践的な語学力の向上			実施状況	ALTとのTT(チームティーチング)を全授業で原則化し、生きた英語に触れながら自らの考えを英語で伝える授業を日常的に展開した。放課後の「ECクラブ」や長期休業中の「ECレク」など、授業外でも英語でコミュニケーションを図る場を設け、子どもたちの英語に対する興味関心を高めた。
【教育行政のスキーム】 語学力とコミュニケーション能力の育成			総合評価	義務教育9年間で求められている力を身に付けることを目標に、継続してALTを最大限に活用した取組の充実を図る必要がある。合わせて、海外研修等の機会を通じ、学んだ英語を実際に活用し、自らの成果を広く発信する場をさらに拡充することが必要である。
7	指導室	4	事業概要	小学校低学年の子どもたちを対象に、田中学園との連携による「ECタイム」等を実施し、日常的に使える外国語の習得を目指す。幼児期からの連続性を意識し、楽しみながら外国語でのコミュニケーション能力の基礎を養うための授業実践を推進する。
田中学園とのコラボレーション			実施状況	田中学園との連携を通じ、低学年における「聞く・話す」を中心とした効果的な語学指導の在り方を具体化した。田中学園の教諭と各校の担任が密に連携し、子どもたちが日常の学校生活の中でも英語を使いたくなるような環境づくりに取り組んだ。
【教育行政のスキーム】 語学力とコミュニケーション能力の育成			総合評価	早期からの語学学習の成果を客観的に評価・検証し、中・高学年へのスムーズな接続と語学力向上のための更なる工夫が必要である。また、中国語教育とも連動させ、多文化を尊重し国際感覚を身に付けるための取組を一層充実させる必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
8	管理課 学校教育係	3	事業概要	講師を学校に配置し、放課後学習を実施することで、小学校低学年から主体性や自主性、そして家庭学習習慣を身に付けさせる。
放課後学習サポート事業			実施状況	1年生から6年生において、タブレットやプリントを使用した放課後学習を実施した。また、7年生は映像授業システムを活用した学習を実施した。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	参加児童が楽しく学習に向き合いながら自主的に取り組む姿勢が継続して見られ、基礎学力の向上と家庭学習習慣の定着に寄与することができた。
9	管理課 学校教育係	3	事業概要	日常とは異なる環境・社会に触れる様々な体験・先住民族との交流等を通して視野を広げ地域を見つめ直すことで、ふるさとへの愛着心と地域に生きる意欲を喚起し、次代の町を自ら創造する人材を育成する。
青少年海外研修事業			実施状況	中学生6名、高校生2名を選抜し、インドネシアのバリ島にて、バリの文化や先住民族との交流を行った。また、環境問題視察と題しスウォンのゴミ山や、すべて竹で造成された校舎のグリーンスクールを訪問し、環境問題の深刻な面と先進的な面との両極端な面を一度に体験した。
【教育行政のスキーム】 語学力とコミュニケーション能力の育成			総合評価	グローバル化が進展する社会における未来の地域リーダーとしての人材の育成を図ることができた。 今後においては、参加した生徒による還流活動などを通じてアイヌ文化の伝承や普及啓発などの取組を進め、アイヌ文化の再興に向けた機運の醸成を図っていく。

評価平均 3.2

施策名			
1 学校教育の充実 (2) 豊かな心と健やかな体の育成			
施策評価			
A		各事業の評価を合計した結果の平均から判断	A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容
1	指導室	3	事業概要 改訂版「生徒指導提要」の4つの視点に基づき、学習指導と関連付けた生徒指導を推進し、子どもたちの社会性と個性の伸長を図る。豊かな心の醸成を目指す道徳教育を基盤に、全教育活動を通じて自己存在感を感受できる温かな学級・学校づくりに取り組む。
生徒指導及び道徳教育の充実			実施状況 「自己肯定感」「共感的な人間関係」などの視点を全教職員で共有し、子どもたちが自ら考え判断し行動できる場の提供に努めた。道徳教育では、子どもにとって身近な教材も活用しながら多角的な視点で価値について考え、深める授業を実践し、心の成長を支援した。
【教育行政のスキーム】 道徳教育の充実			総合評価 安全・安心な学校風土の中で、子どもたちが自らの可能性を信じ、他者を尊重できる資質・能力を育む指導を一層継続する必要がある。学校間や家庭・地域との連携をさらに強化し、社会全体で子どもたちの健やかな成長を支える体制を構築することが必要である。
2	指導室	4	事業概要 子どもたちが主体的にいじめ未然防止や望ましいコミュニケーションを考える「子ども会議」を開催し、いじめのない学校づくりを推進する。高校生や他校との交流を通じ、多様な価値観を認め合い、自他を大切にすることを育むための組織的な取組を展開する。
いじめの未然防止対策			実施状況 白糠高校生がファシリテーターを務める「子ども会議」を継続し、学校間や異年齢での協議を通して、望ましい人間関係の在り方を共有した。各学校での「いじめ根絶」の取組や定期的なアンケート調査を通じ、いじめの早期発見・早期対応と未然防止に努めた。
【教育行政のスキーム】 道徳教育の充実			総合評価 子どもたちが自ら問題意識を持ち、いじめを許さない雰囲気づくりを主導できるよう、主体的な活動への支援を一層充実させる必要がある。教育活動全般を通じた道徳心の育成を継続するとともに、SNS等のネット環境におけるトラブル防止に向けた啓発も必要がある。
3	管理課 学校教育係	3	事業概要 学習や対人関係、家庭の問題等で悩みや不安が生じている児童生徒の心の代弁者として、カウンセリングを通じ、児童生徒が考えていること、不安を感じていること、心の状態を把握し、支援策を立案、助言する専門家を配置する。
スクールカウンセラーの活用			実施状況 町立学校全3校にスクールカウンセラーを配置し、希望者へカウンセリングや声掛けを行った。
【教育行政のスキーム】 基本的な生活習慣の定着			総合評価 児童生徒の不登校やいじめ等の未然防止、早期発見につながった。 また、教育相談体制の充実のために、教職員にも助言・援助をしていただいております、効果的に活用されている。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	指導室	3	事業概要	専門性の高い音楽家による演奏や指導、授業サポートを通じ、子どもたちが音楽の楽しさを享受し、豊かな情操を育む機会を提供する。芸術文化に触れる体験を通じ、多様な表現方法を知り、感性豊かな「しなやかな心」を身に付けるための教育活動を推進する。
情操教育の推進			実施状況	音楽家による専門的なアドバイスを受け、各校の音楽会等に向けた練習の質を高めるとともに、プロの演奏を鑑賞する機会を設けた。授業サポートにより、教職員の音楽指導力の向上にもつながり、子どもたちが主体的・意欲的に表現活動に取り組む姿勢が見られた。
【教育行政のスキーム】 ゆたかさの教育			総合評価	音楽のみならず、多様な芸術文化に親しむ機会を計画的に設定し、子どもたちが人や社会と積極的に関わる力をさらに高める必要がある。地域の伝統芸能や文化等の学習とも関連付け、白糠町ならではの情操教育の在り方を追求していくことが必要である。
5	指導室	3	事業概要	障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに適切に応えるため、個別の支援計画・指導計画に基づききめ細やかな指導体制を構築する。全教職員の理解を深めるための研修を充実させ、通級指導教室の活用や関係機関との連携による組織的な支援を推進する。
特別支援教育の充実			実施状況	個別の支援計画に基づき、ICT機器等の効果的な活用によって学習の障壁を軽減し、一人一人の特性に合わせた授業実践を展開した。学教研白糠大会等の成果を活かし、授業改善についての研究をより一層深化させるとともに、支援員等と連携したチームでの指導体制を強化した。
【教育行政のスキーム】 特別支援教育の充実			総合評価	支援を必要とする子どもたちが増加傾向にある中、在籍学級を問わず、全ての教職員が専門性を高め、きめ細やかに対応する体制を維持する必要がある。保護者との合意形成を図りながら、個々の可能性を最大限に引き出すための指導・支援の質を、継続的に改善していくことが必要である。
6	指導室	3	事業概要	全国体力・運動能力調査結果を分析し、授業改善の推進や運動機会の創出、家庭への運動習慣確立に向けた啓発活動を推進する。学習習慣や生活リズムの定着、情報モラル教育の推進等を通じ、子どもたちが自律的に生活をコントロールできる力の育成を図る。
体力の向上と望ましい生活習慣の確立			実施状況	体育の授業において「運動の楽しさ」を実感できる指導の工夫を行い、一校一実践の取組を設定した。家庭と連携した情報端末の使用ルールの見直しを通じ、健康的な生活習慣の定着を促した。
【教育行政のスキーム】 健康の保持・体力の育成			総合評価	体力低下やスマホ等の長時間使用という課題に対し、家庭の教育力を支援しながら、社会総掛かりで生活改善に取り組む必要がある。また、放課後学習サポート事業等とも連動し、学習習慣の確立を確実なものにすることで、確かな学力の定着へと繋げる必要がある。
7	給食センター	4	事業概要	本町の豊富な地場産物を積極的に給食に取り入れることにより、地域の自然や文化、産業、更には生産者への感謝の気持ちなど、児童生徒にとって郷土白糠への愛着や理解が得られるよう「ふるさと給食」を実施する。
地産地消や環境を考慮した食育の推進			実施状況	年間を通じて地域食材を使用した給食を提供するとともに、月に1度、白糠食材の日として白糠の食材を使用した給食を提供した。また、ふるさと納税返礼品を使用した給食を提供し児童生徒等に普及啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	白糠町の山の幸、海の幸を地元生産者の協力によりふるさと給食を提するとともに、ふるさと納税返礼品を使用した給食の提供をすることが出来た。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
8	給食センター	4	事業概要	児童・生徒の栄養バランスに気をつけ献立内容の充実を図り、食品・食材の衛生管理に万全を期し、安全・安心な給食を提供する。
安全で喜ばれる給食の提供			実施状況	学校給食実施計画により、1週あたり米飯3.5回、パン給食1回、麺給食を隔週で実施した。 また、行事食の実施など、献立の内容を工夫しながら児童生徒に喜ばれる給食を提供した。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	衛生管理を徹底し、適切な調理の遂行や食材の管理により、円滑な運営が図られた。 また、栄養基準に沿った献立で、安全・安心で、おいしい給食を実施することが出来た。

評価平均 3.4

施策名			
1 学校教育の充実			
(3) 信頼される学校づくりの推進			
施策評価			
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断	A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容
1	社会教育課 社会教育係 (学校教育係)	3	事業概要 地域に学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みを整えることで、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制を整える。
コミュニティ・スクールの充実			実施状況 白糠地区、茶路地区及び庶路地区の町内全地区で学校運営協議会を設置し、地域性を踏まえた協議が行われており、学校・地域が連携協力して子どもを育てる意識が高まってきている。
【教育行政のスキーム】 家庭教育・地域教育支援の充実			総合評価 組織が形骸化することの無いよう、今後も学校・家庭・地域の連携をより一層強化し、地域ぐるみで「地域とともにある学校づくり」を進める必要がある。
2	指導室	4	事業概要 教育研究所を中核に、教師一人一人のキャリアステージに応じた研修を推進し、教職員相互の協働的な学びによる質の高い教育活動を展開する。各学校の垣根を越えた実践的な研修や公開研究会を開催し、町全体の指導力向上と授業改善の加速化を図る。
教職員の資質・能力の向上 (教育研究所の支援)			実施状況 教育研究所における授業改善研修や研究発表会を通じ、最新の教育動向の共有や、白糠町独自の課題に対する具体的な指導法の研究を推進した。町外の先進校との交流やオンライン研修の活用により、広い視野を持った教職員の育成に努め、組織的な指導力の向上を図った。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価 「学教研白糠大会」の成果を確実な授業実践に繋げ、学び続ける教職員集団の形成を加速させる必要がある。働き方改革の推進と両立させながら、研修の効率化と実効性を高め、教職員が情熱を持って子どもと向き合える環境を整える必要がある。
3	管理課 学校教育係	3	事業概要 教職員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子ども達に対して効果的な教育活動を行うことができるようにする。
働き方改革の推進			実施状況 すでに策定・公表されている「白糠町立学校における働き方改革アクションプラン」により、教職員の時間外在校等時間を1か月45時間以内、1年間で360時間以内と掲げている。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価 令和7年度において、1か月45時間を超過したのは延べ18名、1年間360時間を超過したのは7名。この数字をさらに少なくできるよう、引き続き学校現場に働き方改革の推進について呼び掛けていく。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	管理課 学校教育係 (給食センター)	3	事業概要	経済的な理由により就学困難な児童生徒の家庭への助成や、新入学児童生徒への入学支援、給食費無料化を行い、保護者の経済的負担を軽減する。
	学習環境の充実(各家庭への支援)		実施状況	就学援助費や特別支援教育就学奨励費及び入学支援金を支給するとともに、給食費無料化を継続した。令和7年度からは入学支援金の額を増額し、更なる経済的負担軽減を図った。
	【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着		総合評価	対象世帯へ各種助成金や支援金を支給することで、経済的負担軽減につなげることができた。
5	管理課 総務係	4	事業概要	地域に根差した魅力ある教育活動を推進するため、教育振興協議会へ助成を行ったほか、高校内に設置した公設塾にて、生徒が希望する進路を実現するため、高校と連携した進路指導を行う。
	白糠高校への支援(教育振興協議会補助金ほか)		実施状況	白糠高等学校教育振興協議会へ、教育活動の充実及び高校の魅力づくりのために、6,094千円を交付したほか、高校内の教室を使用した公設塾を運営した。
	【教育行政のスキーム】 高等学校との連携協力		総合評価	ICTを活用した教育活動や、キャリア教育の充実が図られ、資格検定料補助による積極的な資格取得の取り組みが活発になった。公設塾では、高校と連携した進路指導により、進学・就職ともに希望に沿った進路が実現した。
6	管理課 総務係	3	事業概要	高校生徒の全国募集を目的とした地域みらい留学事業に参画するとともに、全国から生徒を受け入れるための寮の管理・運営を行う。
	白糠高校への支援(全国募集の受入体制整備)		実施状況	東京会場やオンライン上にて、全国の中学生とその保護者に対し、白糠高校への入学を検討してもらえよう、白糠町・高校・寮の魅力について白糠高校生と共に説明を実施した。
	【教育行政のスキーム】 高等学校との連携協力		総合評価	東京会場及びオンライン上において、47組に対して説明を実施したが、今年度の入学者の実績には繋がらなかった。からまつ寮の管理・運営については、指定管理者と連携のうえ適切に行うことができた。
7	管理課 総務係 学校教育係	3	事業概要	児童生徒の適切な教育環境を保つことや、教職員の住居環境を整備するため、学校施設等の維持管理及び学校施設等長寿命化計画に基づく施設の改修を実施する。
	学校施設等及び教職員住宅の維持管理		実施状況	学校施設等長寿命化計画に基づき、適切な修繕を行い、教育環境の維持管理に努めた。(学校教育係) 教職員住宅は適切な修繕を行い、住環境の維持管理に努めた。(総務係)
	【教育行政のスキーム】 たしかさの教育		総合評価	学校施設等長寿命化計画に基づき計画的な施設改修等を実施することができている。今後についても財源確保の上、計画通り施設の長寿命化を図る必要がある。

評価平均 3.3

施策名				
2 社会教育の充実				
(1) 豊かな心を育む生涯学習の推進				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A=3.4~4.0 C=1.8~2.5
				B=2.6~3.3 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	『三愛運動』の奨励・実践として、各種会議資料等にタイトル、ロゴマークを掲載。『ふるさとエコ&クリーンしらぬか』についての調査を行う。
まちぐるみ運動の推進			実施状況	『三愛運動』や『ふるさとエコ&クリーンしらぬか』の学校・家庭・地域での活動を奨励するための啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 まちぐるみ運動の促進			総合評価	普及・啓発運動を継続して行うとともに、今後も意識を高め活動の推進を図る必要がある。
2	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	ボランティア活動の機会充実と活動支援、人材バンクの整備と指導者養成。
ボランティア活動の推進			実施状況	『学びの支援ボランティアどさんこ』には24名の講師が登録。青少年育成センターの『青少年育成員』には、町内会等から89名が登録。また、『しらぬかジュニアボランティア』には12名の中高校生、短大生が登録し、ボランティア活動の機会を提供した。
【教育行政のスキーム】 ボランティア活動の促進			総合評価	活動は定着しているが、今後も新たな登録者や講座の発掘に努める必要がある。

評価平均 3.0

施策名			
2 社会教育の充実			
(2) 社会教育活動の充実			
施策評価			
B	各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)	評価	点検内容	
1 社会教育課 社会教育係	2	事業概要	家庭教育を支援するため、『家庭教育カフェ』事業の実施や、『家庭教育の手引書「えがお」』の活用を奨励。またPTA連合会と連携し『子育てセミナー』を開催する。
家庭教育力を向上させる支援の充実		実施状況	『子育てセミナー』については、町PTA連合会と連携して事業を展開し33名が参加。町民に対し家庭教育について啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 家庭教育・地域教育支援の充実		総合評価	事業への参加者が昨年度に比べ、半減してしまったことから、より一層学校との連携を深め、保護者への事業周知の工夫、家庭教育に関する情報発信・支援を行う必要がある。
2 社会教育課 社会教育係	3	事業概要	青少年の健全育成を図るため、ふるさとをテーマにした活動や体験事業など、様々な学習機会を提供するとともに青少年育成センターの事業充実を図る。
青少年の健全育成事業の推進		実施状況	『ふるさと未来塾』や『明日の青少年を考える集い』『海の子山の子ども交流事業』『八王子市白糠町子ども交流事業』など各事業を実施することができた。
【教育行政のスキーム】 青少年健全育成事業の推進、生涯学習の環境整備		総合評価	自然体験等地域の基幹産業についての学びを通じて、ふるさとの魅力を再発見し、郷土への思いを深めさせるなど、健全育成活動を推進することができ、青少年への声かけや見守りも継続して行うことができた。今後も様々な形で実践活動に取り組むことが必要である。
3 社会教育課 文化振興係	4	事業概要	図書室機能やサービスの充実を図るとともに、図書室利用促進を図る各種事業を実施し、読書活動を支援する。
読書機会の拡充		実施状況	4か月児や3歳児、小学1年生に絵本をプレゼントするふるさとブックスタート事業を実施したほか、図書室魅力発信事業として、「よみきかせ&ピアノによるクリスマスイベント」等を実施した。
【教育行政のスキーム】 家庭教育・地域教育支援の充実、生涯学習の環境整備、読書活動の積極的な取組		総合評価	こどもの成長に応じた本をプレゼントすることで読書のきっかけづくりや習慣化を支援することができ、読書活動の推進を図ることができた。 また、様々なイベントを開催し、図書室の利用促進を図ることができた。

評価平均 3.0

施策名				
2 社会教育の充実				
(3) 文化芸術活動と郷土芸能の振興				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 文化振興係	3	事業概要	町民だれもが気軽に、自由に文化活動に親しむことができる環境づくりとして、発表機会、参加機会を拡充し、活動の推進に努める。
文化芸術活動の充実			実施状況	活動の発表・鑑賞の場として、文化協会の月例発表会を実施した。
【教育行政のスキーム】 文化芸術活動の充実、生涯学習の環境整備			総合評価	発表の場を設けることにより、団体活動の活性化を図ることができた。また、町民に団体活動の内容を知ってもらう良い機会となった。
2	社会教育課 文化振興係	3	事業概要	郷土芸能やアイヌ文化の保存伝承活動の推進と後継者の育成に努める。
郷土芸能の伝承活動推進			実施状況	イベント参加調整等の運営協力を行った。アイヌ文化の保存伝承活動では、小中学校での出前講座や、チセでのアイヌ文化体験事業を支援することができた。
【教育行政のスキーム】 郷土の歴史と文化の伝承活動推進			総合評価	郷土芸能の伝承活動を推進するため、団体活動の支援や発表機会の拡充を継続的に進めるとともに、新規会員の加入促進や後継者の養成に努める必要がある。 郷土資料の整備を行い、公民館や社会福祉センターで資料展示を行うなど郷土資料の活用を図ることができた。

評価平均 3.0

施策名				
2 社会教育の充実				
(4) スポーツ活動の振興				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 スポーツ推進係	4	事業概要	ひとり1スポーツを目指し、各種スポーツ教室やスポーツイベントなどの充実を図り、生きがいや楽しみを重視した体力・健康づくりの推進。
生涯スポーツの充実			実施状況	障がいのある人も健常者も一緒に行えるニュースポーツである「ポッチャ」や「モルック」の教室を開催した。また、パークゴルフ大会などのスポーツイベントを実施した。
【教育行政のスキーム】 生涯スポーツの充実			総合評価	スポーツ推進委員を活用し、ポッチャやモルックの普及を目的に教室を開催し、町民がスポーツに親しむ機会の充実が図られた。パークゴルフ大会も開催し体力づくり、健康づくりの機会提供ができた。
2	社会教育課 スポーツ推進係	4	事業概要	各種大会出場への助成や指導者の養成等、スポーツ団体やサークルの継続的・組織的な自主活動の支援と環境の整備を行う。
競技スポーツの充実			実施状況	スポーツ国際交流員の活用により、少年団及び部活動におけるバドミントンの競技レベルの向上が図られた。また、スポーツ団体やサークルの活動支援として、スポーツ協会や少年団本部等への支援や大会出場へ助成を行うなど、活動環境の整備を図った。
【教育行政のスキーム】 スポーツ大会の充実			総合評価	各競技団体や指導者との連携を図り、競技スポーツの普及及び競技力向上に向けた取組を実施した結果、全道大会や全国大会での入賞につながった。 スポーツ活動の充実を図るためには、指導者の養成や人材の確保も重要であることから、研修会の開催や競技者から指導者への導きなど、様々な方策が必要である。
3	社会教育課 スポーツ推進係	2	事業概要	学校部活動の地域展開により、学校と地域が連携した持続可能なスポーツ環境と生徒が継続してスポーツ活動に取り組める体制整備を推進する。
学校部活動の地域展開			実施状況	学校部活動の地域展開に向けた検討を重ねていたが、関係機関との調整や体制整備に至らなかった。
【教育行政のスキーム】 地域スポーツの推進			総合評価	学校部活動の地域展開については、具体的な事業実施には至らなかった。今後は、地域指導者の確保や関係団体との連携体制の構築、運営方法等について協議を進め、地域の実情に応じた持続可能な体制整備を図る必要がある。 国が示すガイドラインに基づき、地域スポーツクラブ活動に係る認定制度の構築及び運営体制の整備を進める必要がある。

評価平均 3.3

施策名			
2 社会教育の充実			
(5) 社会教育施設の整備・充実			
施策評価			
A	各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)	評価	点検内容	
1 社会教育課 社会教育係 文化振興係 スポーツ推進係	3	事業概要	学習施設として利用者が安全・安心に利用できるよう、社会福祉センター・縫別自然の家・公民館・総合体育館・温水プール等、各施設の適切な管理と整備を行う。
施設の長寿命化を図る 保全・管理		実施状況	各施設への管理人の配置や施設・設備の保守点検や営繕により、適切な管理と維持に努めた。
【教育行政のスキーム】 生涯学習の環境整備		総合評価	各施設とも支障なく管理運営することができた。より利用しやすい施設づくりのため、施設や設備の老朽化、利用者の要望をふまえた改修を計画的に進めていく必要がある。
2 社会教育課 文化振興係	4	事業概要	昭和56年に建設された公民館を改修し、機能の充実と利便性向上を図り、図書館法に基づく図書館として整備する。
図書館整備事業の推進		実施状況	令和6年度に了した基本設計に基づき、建物の詳細な仕様や工事内容を確定する実施設計を行った。また、建設工事实施のため、公民館図書室にある図書等に移設し、社会福祉センター内に臨時図書室を開設するとともに、施設内の整理を行った。
【教育行政のスキーム】 家庭教育・地域教育支援の充実、生涯学習の環境整備、読書活動の積極的な取組		総合評価	令和9年8月の供用開始に向けて、実施設計や臨時図書室の開設などスケジュールどおり了することができた。
3 社会教育課 スポーツ推進係	4	事業概要	各競技団体や指導者との連携を図り、競技スポーツの普及及び競技力向上に向けた取組を実施した結果、全道大会や全国大会での入賞につながった。 スポーツ活動の充実を図るためには、指導者の養成や人材の確保も重要であることから、研修会の開催や競技者から指導者への導きなど、様々な方策が必要である。
利用の活性化を図る工夫・改善		実施状況	施設修理・備品整備により、施設機能の維持及び利用環境の向上を図ることができた。 また、指定管理者による施設運営により、各スポーツ施設の適切な維持管理及び利用者サービスの向上が図られ、安心・安全に利用できる施設環境の提供につながった。
【教育行政のスキーム】 生涯スポーツの充実		総合評価	指定管理者による適切な施設運営及び施設修理・備品整備により、施設機能の維持と利用環境の向上を図ることができた。 また、経年劣化による不具合にも適宜対応し、利用に支障のない施設管理運営を行うことができた。 施設設備の老朽化が進んでる部分は、今後も計画的に改修・修繕を行う必要がある。

評価平均 3.7